マダラ

陸奥湾海域

Gadus macrocephalus

地方名
たら、ぽんたら、ぼうだら

生態

①寿命：陸奥湾産卵群は8年以上（太平洋8年、日本海10年）
②成熟：オス3歳以上、メス4歳以上
③産卵期：陸奥湾で12月下旬～翌1月中旬
④産卵場：陸奥湾、岩崎沖、階上沖
⑤分布：黄海からカリフォルニア沖に至る北太平洋大陸棚と大陸斜面。日本では島根県以北の日本海及び茨城県以北の太平洋から北海道沿岸。
⑥生態：直径1㎜前後の弱粘着性の沈性卵を200万粒～500万粒産卵。水温2～4℃、水深200～500mの海底付近に生息。主な餌生物は甲殻類や魚類、イカ類、貝類など。

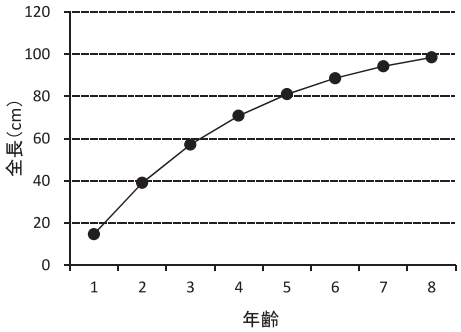

図　青森県におけるマダラの成長

主な漁業

陸奥湾では産卵期前後の12月から2月にかけて主に底建網、定置網で漁獲される。陸奥湾湾口部は海水や魚類などの生物の「出入口」にあたる。陸奥湾の海水は、一般に津軽暖流が陸奥湾西岸寄りから流入し、冬季には東岸寄りから湾内で冷やされた水が流出する。そのためマダラが産卵のために回帰する「魚道」が東岸寄りに形成されやすいとされている。陸奥湾以外の海域では底びき網、底建網、さし網、釣りなどで漁獲される。陸奥湾では3歳から漁獲される。

漁獲の動向と水準

陸奥湾における漁獲量は、昭和50年以降増加し、昭和61年の2,035トンを最高に平成3年まで1,300～2,000トンで推移したが、それ以後減少を続け、平成18年には昭和50年以降最低の25トンまで落ち込んだ。平成21年以降緩やかに増加しており、平成27年は500トンと、この20数年では最も多かった。

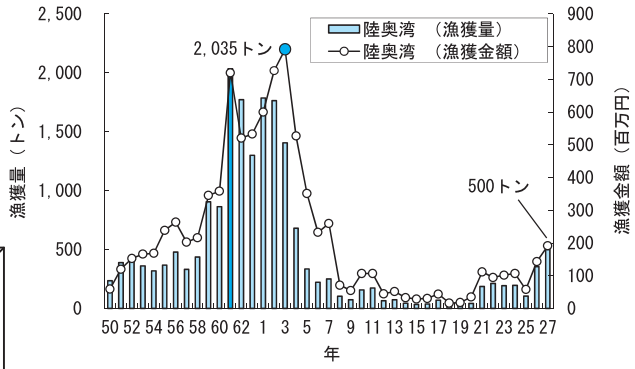

図　青森県陸奥湾におけるマダラの漁獲量及び漁獲金額の推移

資源を上手に利用するために

○マダラ陸奥湾産卵群資源回復計画（平成19年3月水産庁）
・陸奥湾地区の底建網漁業及び小型定置漁業による、放卵・放精後の親魚及び小型魚の再放流などについて定めた。
☆上記の取り組みを継続することが必要である。

トピックス

・陸奥湾のマダラ稚魚は、平成21年～23年に良好な発生が見られ、これらの年級群が順調に成長、成熟し陸奥湾へ来遊したことが平成26年、27年の漁獲量増加に繋がったと考えられる。
・青森県沿岸では、北海道系群に含まれるとされる陸奥湾産卵群のほか、日本海沿岸、太平洋沿岸でマダラが漁獲され、それぞれ日本海系群、太平洋北部系群とされている。平成27年の日本海沿岸の漁獲量は199トン、太平洋沿岸の漁獲量は4,661トンで、太平洋は陸奥湾よりもはるかに多く、近年の資源水準も高位にある。